

ヤブサメ



澄川活動日にはしばしば先着して、巣箱の様子やキノコの出方などをチェックするために集合時間までに作業道を独り歩きをいたします。そんな時でなければ出会えない鳥のひとつヤブサメの撮影に成功しました。といってもやっとのことでレンズに捉えたというレベルのものですが、初めてのことなので喜んでおります。

ヤブサメはウグイス科ですが、声はめったに聞かれませんが、姿は、あるく道の先にチラリと影が見えるだけで、すぐに藪に消えてしまう鳥なのです。ヤブサメであることはほぼ判っても、レンズに捉えることは今まで出来ませんでした。シルエットは比較的尻尾が短いのが特徴なので、それと判り易いのですが、警戒心がすこぶる強いので、じっくり姿を見せてはくれません。

以前に積丹半島の先端部、余別川の森で私が静止しているときに、ヤブサメが近くのノブドウの叢からひょいと姿をあらわしてくれ、近々と目が合ったことがありました。この時はあまりにも近くて身動きも瞬きもできませんでした。目が合ったとたんに飛び去られましたが、あざやかな残像をしばし楽しみました。

装いはウグイス仲間共通の地味地味タイプで、大きさもウグイス大、上面の色合いが茶褐色、下面部は薄汚れた白色、白い眉斑と短い尻尾が識別のポイントです。

英名は Asian Stub-tail と表記します。尻尾が短い特徴を強調されていてよい命名だと思います。分布は大陸では中国東北部からウスリー、朝鮮半島そして九州以北の日本で繁殖。冬は中国南部、東南アジアに渡るとされています、まさに Asia の鳥なのであります。



澄川の森の沢地にヘイケボタルが生息していることが、昨年判明いたしました、にわかに沢地保全の機運が高まり、沢を渡渉する地点 3 ヶ所に木道を架けました。林内散策にこれら木道をゆっくり渉り、鳥や昆虫の観察をするのも大きな楽しみであります。ホタル以外にもトンボ達がこの沢地で繁殖しており、オニヤンマからイトトンボにいたる色々なトンボ達に出会うことができます。羽根の橙色がひとときわ鮮やかなカワトンボも棲んでおります。昔々、昆虫少年であった血がさわぎます。まずはトンボだけでも徹底的に調べてみようかと思っております。古希を過ぎたジジイが補虫網を振り回している姿を想像しますと、いささか滑稽の感はまぬがれませんが、老化防止にはまちがいなく効果があると信じて実行に移したいと思う次第であります。